

Q&A 先月の技術相談から

「これは何というきのこでしょうか？食べられますか？」のお答えに代えて

野生きのこのシーズンです。自然志向、健康ブームからきのこに関心が高まって森や林に入り“きのこ狩り”を楽しむ人が増えています。「食べられる？」「何というきのこ？」と持ち込まれることも増えてきました。同じきのこでも、採れた場所によって色や形が図鑑と異なる場合が多く、判別を難しくしています。そこで、判別する手掛かりとして、発生している環境を良く見て下さい。発生（採取）した場所は（広葉樹林、針葉樹林、草地など）？、きのこの生え方は（木から直接または土から生えていた、輪になっていた、列になっていた、1本ずつ単独、株立ちなど）？などなど。また、きのこは途中から切り取らないようにして、全体が観察できると判別しやすくなります。判別法の一つとして知られる昔からの誤った言い伝え「縦に割けるきのこは食べられる」なども注意しましょう。

去年は、33件の相談があり、全て判別できたわけではありませんが、日本のきのこの王様、マツタケや毒性のあるクサウラベニタケがありました。

今年は、夏暑く、秋に入って雨も適度に降っているため、色々なきのこが豊富に発生しているようです。特に9月に入って、ナラタケ属のきのこが多く持ち込まれています。ナラタケは、ボリボリの愛称で親しまれ、昔からよく火を通して食べると、歯切れが良くほのかな甘い香りのする美味しいきのこです。



写真1 人工栽培されたナラタケ



写真2 野生のナラタケ

野生きのこの判別は難しく、よほど自信がなければ「食べても大丈夫です」とは言いにくいものです。私どもも人工的に栽培しているきのこに関しては対応できますが、野生きのこの判別は絶対ではありませんので、参考程度としていただければと思っています。

（主任林業専門技術員 森 三千雄）

道内のきのこによる食中毒の発生状況（S46～H14年までの累計）

◎発生件数：129件，患者数：511名，死者数：4名

◎原因となったきのこの種類

種類が判明（推定を含む）した件数：129件中114件

死亡：タマゴタケモドキ2名，クロトマヤタケ1名，種類不明1名

その他：ツキヨタケ34件，クサウラベニタケ25件，テングタケ20件，
イッポンシメジ10件ほか